

令和2年4月15日発行

RIKKO SEKAI No.1084 力行世界 令和2年4月15日発行 (1)

2020年
4月号

年4回発行(1. 4. 7. 10月号)

No.1084

(学)日本力行会

力行世界

R I K K O S E K A I



創立1897年1月1日



目次

イヤーエンド・パーティー..... 2・3	留学生関連記事..... 10
りっこう学童クラブ..... 4・5	
りっこう幼稚園だより..... 6・7	日系四世関連記事..... 11
各国からのクリスマスカード紹介 8・9	力行だより、会費お願い..... 12

お別れイヤーエンド・パーティー

12月14日(土)、午後1時～3時まで、イヤーエンド・パーティーを開催しました。

当日は、ブラジル6名、フランス4名、アメリカ3名、中国3名、ドイツ3名、ベトナム2名、インドネシア1名、スウェーデン1名、メキシコ1名と、日本語ボランティアの先

生と息子さん、お嬢さん、管理人夫妻、事務所職員5名の総勢37名が参加しました。

パーティーのテーブルセットや飾り付けをしていると、フランス人男性、会館生代表者の Quentin さんが、手伝いに来てくれました。開始時間が近づき、徐々に参加者が集まり、

賑やかになったところで、はじめに、事務局長から挨拶をし、次に課長よりアナウンスがあり、各国代表者が舞台上に並び、恒例の各国語での乾杯の後、お寿司、ピザ、唐揚げ、フライドポテトのオードブルやスナック菓子を、歓談しながら楽しく頂きました。



美味しいご馳走が並んでいます



日本語ボランティアの先生とお子様



各国代表者による乾杯

ゲームの時間になったので、皆で協力し、料理を一か所にまとめたり、テーブルの片付けをし、参加人数より二つ減らした椅子を会場の真ん中に丸く並べ、椅子取りゲームの準備が出来ました。司会の職員より、

ゲームの紹介と説明をし、ゲームをスタートしました。二つずつ減らされる椅子に、音楽に合わせてリズムを取りながら前に移動、楽しく競い合い、最後は、日本語ボランティアの宮原先生の息子さんと、フランス

人男性の Djebriil さんの戦いになりましたが、Djebriil さんの優しさから優勝を譲る形となり、最後は握手でお互いの健闘を称え、両者共に、優勝という事で、賞品も二人に渡されました。



椅子取りゲーム



記念撮影

最後は、壇上に勢ぞろいし、記念撮影をし、閉会となりました。後片付けも皆で一緒にし、残ったお料理はセルフサービスで、皆のお土産に持って帰って貰いました。



おめでとう!!



締めはビンゴゲームです。リーチの人は沢山出てくるものの、中々、ビンゴは出ず、その内、一人、二人と出て来ると、順番に壇上に並べられた、プレゼントも次々なくなり、全部なくなったところで、ゲームは終了となりました。

今回も、楽しいパーティーを開催する事が出来ました。ご協力頂きました皆様に心よりお礼申し上げます

ます。

最後になりましたが、会館生の感想文をご紹介します。



ビンゴゲーム



一年間力行会に住みました。この一年の間に、色々、ここの中で経験をしたり、一生の友人を作りました。イヤーエンドパーティーに参加し、ここでいい年を過ごせた、いい友達を作れた、ここの中で笑ったり泣いたりし、本当にいい経験ができたと思う。

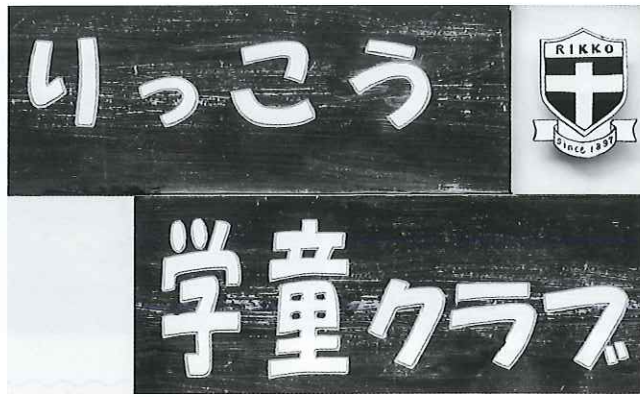
パーティーで「もう一年経つのか」と思い、半分悲しがり、半分嬉しがり、本当にいい年を過ごせたと思う。ここで作った友人と美味しい寿司や揚げ物、ピザを食べながら笑ってゲームをして、ビンゴもやりました。今回、僕は何も当たらなかったけれど、非常に楽しいパーティーでした。

事務所の皆さん、大変お世話になりました。色々と僕たちの面倒を見てくれてありがとうございました。

植原優悟

ブラジル・男子

日系スカラシップ16期生



楽しいクリスマス会

12月に入りクリスマスが近づいてくるにつれて、子ども達のワクワクしている気持ちが伝わってきました。「サンタさんに何を願いしようかな～」と子ども達同士で話し合う姿がみられました。

クリスマスの飾りつけとして、マカロニを使ったリース作りをしました。多くの種類の中から自分の好みのものを探し出し、ボンドで貼っていきます。



マカロニリース作りに夢中

マカロニをきれいに並べて置いたり、山盛りに積んだり一人ひとり違う個性豊かな作品が出来上がりました。

高さ180cmのクリスマスツリーの飾りつけもして、いよいよクリスマス本番がやってきました。当日のおやつ時間はいつもより少し豪華にみんなでピザを食べました。



焼きたてのピザを食べる

その後は毎年恒例のお楽しみ、ビンゴゲームをして盛り上がりました。1～50までの数字を自分でマスの中に入れて、オリジナルのビンゴカードを作ってビンゴがスタート。緊張の中、数字が読み上げられ、自分の書いた番号があると子ども達は目を輝かせながら嬉しそうにカードに丸をつけていきました。ゲームが進んでいくにつれ「リーチ！」の声も増えてきました。みんなの表情は真剣そのもの。「ビンゴ！」早くあがった人からクリスマスツリーの下に並べられたプレゼントを選ぶことができます。中身は家に帰ってからの楽しみ。大事そうに抱えてワクワクしながら家に帰りました。



プレゼント選び——どれがいいかな

手作り恵方巻と鬼退治の節分

「学童クラブに鬼が来るよ！」と伝えると、「絶対倒す！」「やっつける！」など強気の声が聞こえてきました。鬼退治の準備として新聞紙を丸めてたくさん鬼退治用の豆を作りました。「こ

れでいつ鬼が来ても倒せる！」みんな気合が入っていました。

おやつには手作りの恵方巻を食べました。今年の恵方は西南西。全員で同じ方角を向きながら、言葉を発

さずに食べている姿がとても可愛かったです。おやつ時間はいつもおしゃべりをしながら楽しく過ごしているので、こんなに静かなことはありません。1年間過ごしていてもなかなか見られない珍しい光景でした。

おやつ後は、いつも通り勉強や読書をして過ごす「しずかタイム」です。みんなが静かに座っている中、突然部

屋に鬼がやってきました。みんなびっくりしていましたが、すぐに作った新聞紙の豆を取りに行き、鬼に向かって「鬼は外!」と投げていました。お友達

が鬼にさらわれそうになると、子ども達が協力して助けようとする姿も見ることができました。りっこう学童クラブの絆の深さを感じる1日となりました。



鬼と戯れる

◀ 鬼退治

「弦楽四重奏」によるコンサート

弦楽四重奏楽団の「Quartet-f」さんをお招きして演奏を披露して頂きました。Quartet-fさんは、バイオリン2人とヴィオラ1人、チェロ1人の武蔵野音楽大学出身の卒業生4人で構成されていてメンバーそれぞれがコンクールの受賞歴や海外演奏経験もあり、国内外問わず活動しているグループです。

このコンサートは2月26日に実施しましたが、新型コロナウイルス対策として、参加者全員がマスクを着用、手洗いやうがいの励行、空気清浄機等を使用するなどによる室内の換気に配慮しながらのコンサートとなりました。

前半のステージは、子ども達にとって曲名は知らないけれど聴きなじみのあるクラシックの名曲からスタート。普段は元気いっぱいの子ども達も、真剣に聴いていました。途中、奏者の方が舞台から降りて、観客の子ども達の至近距離でバイオリンを弾いてくれる演出もありました。

後半は、子ども達もよく知っているディズニーの「ホールニューワールド」「小さな世界」「アナと雪の女王」などの演奏で、子ども達は一緒に歌ったり、手拍子をしながら演奏を楽しみ

ました。最後の曲は今話題の「パプリカ」。普段よく聴く曲調とは雰囲気が違う弦楽四重奏でのパプリカでしたが、子ども達は、歌ったり、踊ったりと大盛り上がりで会場が一つになりました。今回の45分間の特別なステージは、子ども達はもちろん、大人にとっても楽しめるコンサートでした。



至近距離での演奏に注目



Quartet-fのメンバー



みんなで歌い・踊り、会場がひとつに

りっこう幼稚園だより



クリスマス会

すみれ組 寺尾夏枝

12月11日～13日の3日間、幼稚園ではクリスマス会を行いました。いつも私たちのことを見守ってくださる神の子、イエスさまのお誕生を生誕劇を演じることでお祝いします。年少組の子どもたちは全員がひつじ役、年中・年長組の子どもたちは、くじびきで神さまから一人ひとりに一つずつ頂いた役を心を込めて演じました。

1日目は年中組。初めて頂いた自分の役にドキドキしながらも、友だち

と一緒に心を合わせてセリフを言う経験や演じることの面白さを体感してきました。当日は保護者の方々をお招きし、子どもたちも「上手にできるといいな!」「ちょっとドキドキしてきちゃった!」など様々な思いを抱き始めました。全員で最後のセリフ「これで聖劇を終わります」と言い終えた後、お客さん

からたくさん拍手を頂いた子どもたちの達成感に満ちた表情がとて印象に残っています。

2日目・3日目は年少・年長組がそれぞれ2クラスに分かれて行いました。年長組の子どもたちは、それぞれがセリフや動きを考え表現し、自信に満ちた表情でのびのびと楽しんでいる様子が伝わり、初めての劇に

臨む年少組のひつじたちは、羊飼い役の年長組のお友だちと息を合わせ、この時期にしかできないありのままの表現を自由に演じることができました。

クリスマスに向けての取り組みの中



で『クリスマス』が『イエスさまが誕生された日』ということを知り、普段のお祈りの中での『天の父なる神さま…、このお祈りをイエスさまのお名前を通して…』という言葉により身近に感じ、神さま、そしてイエスさまが私たちのことをいつも近くで見守ってくださるということに安心感を持ち、これからもその愛に包まれながら共に育っていただけることを願っています。

もちつき大会

もも組 松尾涼子

新しい年を迎え、1月10日(金)にもちつき大会を行いました。

クラスで『もち』の絵本を読んでイメージを膨らませたり、杵を持つ真似

をしてもちつきの練習をしたり、子どもたちがそれぞれに期待感を持ち当日を迎えました。

当日は穏やかな天気恵まれ、青空の下でもちつきを行うことが出来ました。時間になるとクラスごとに臼を囲んで座り、まずはもち米をせいろで蒸した『ふかし』をもぐもぐ…。「あまい!」「口の中でおもちになった!」と嬉しそうに味



わっていました。そこに、蒸したもち米が臼に運ばれてきて最初はお手伝いのお父さんにおもちをついて頂きます。「〇〇くんのお父さんだ!」「がんばれ〜!」と声援を送り、力強いもちつきを真剣な眼差しで見つめる子どもたち。いよいよ自分たちがつく番になり、先生に名前を呼ばれると嬉しそう

に前に出て友だちと2人組でおもちをつきます。周りの友だちから「1、2、3…」のかけ声があり、その声援を受けて力を合わせておもちをつきました。つきあがったおもちが長〜く伸び

るのを見て大歓声！ すぐにお手伝いのお母さんが丸めて味付けをして下さり、クラスでつきたてのおもちを頂きました。「おいしい！」「おかわりください！」とどのクラスも満足そうな笑

顔でいっぱいでした。
日本の伝統行事を経験し、友だちと力を合わせておもちをつく楽しさ、一緒におもちを味わう嬉しさを感じることができた1日でした。

節分

ゆり組 馬上朝子



お部屋で武器を作って気持ちを高める子、鬼の仲間だと思わせればやられないのでは？と話し合っ、鬼のお面を作る子、不安そうな表情の子など、様々です。お部屋で、歳の数だけ豆を食べ、みんなで園庭に集合です。みんなで豆をまこう！ と、鬼が

は外！ 福は内！」と豆をまきました。これで安心かと思いきや、どこからともなく鬼の姿が…！ その姿を目にすると一瞬で表情が変わり、走って逃げたり、泣き出す子、一方で、豆を手にいっぱい持ち鬼に投げたり、お手製の武器で立ち向かう姿もありました。鬼を追いかけたり、追いかけられたりしながら、みんなで力を合わせ、なんとか鬼を退治することができました。

心の鬼も退治し、福を呼び込んだ子どもたちが、これからも健康に過ごしていけるよう願っています。

毎年2月が近付くと、「もうすぐ鬼来るよね？」「いやだなあ」「隠れればいいよね！」「武器作って、やっつける！」などと会話が聞こえてきます。そんな思いと共に迎えた節分。幼稚園の玄関には、鬼が嫌いなヒイラギの葉とイワシの頭が飾られました。家から武器を作って勇ましく登園する子、

ぐみの雰囲気と、いつ鬼が来るのか、どこから来るのかと周りを見回したり、先生にしがみついたり、やっつけよう！と意気込むすみれぐみ、ゆりぐみの、なんとも言えない静けさが園庭を包みました。まずは、みんなで大きな声で「鬼



ひなまつり

もも組 森田彩花

少しずつ寒さがやわらぎ春の暖かさを感じられるようになった3月17日、新型コロナウイルス感染予防のための休園でできなかったひな祭りのお祝いをしました。玄関に飾ってある桃の花を各クラスで見に行きました。近づいて見たり、匂いを嗅いでみたりする姿が見られました。2階のひな飾りの前へ行くと、先程見た桃の花の飾りに気づき、「桃の花だ！」と嬉しそうに見る姿が見られました。また、ひしもちの三色の色の意味をお部屋で聞いていたので、実際に本物のひしもちを見

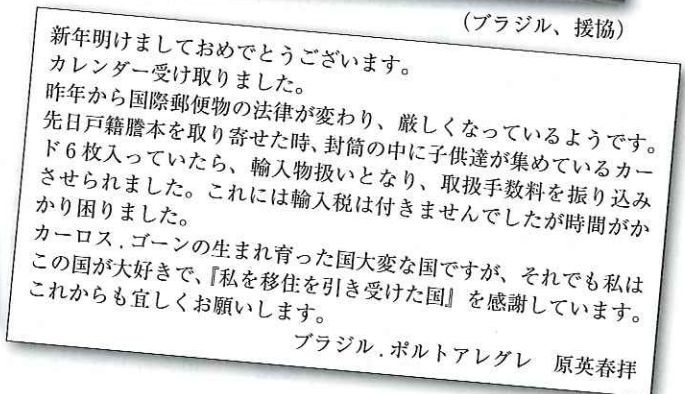
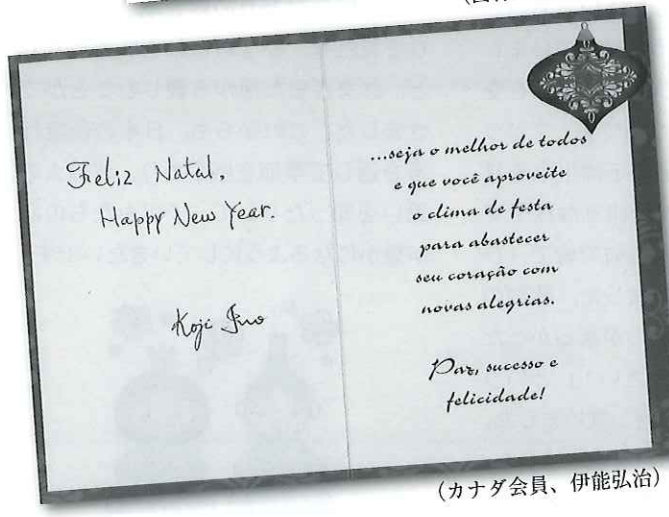
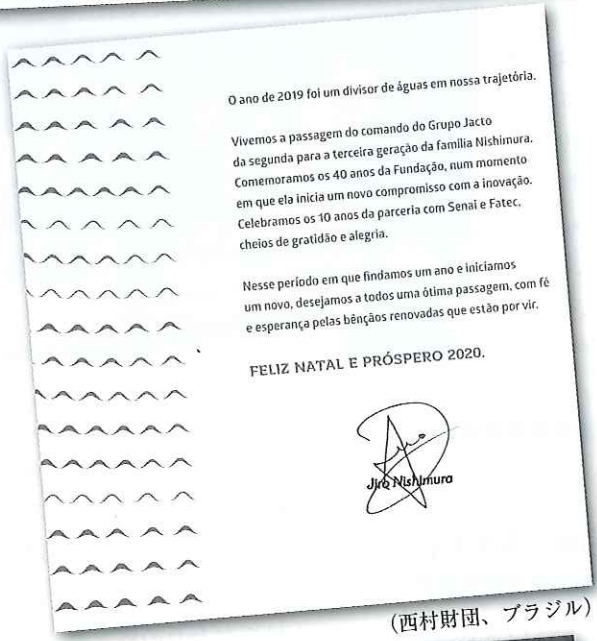
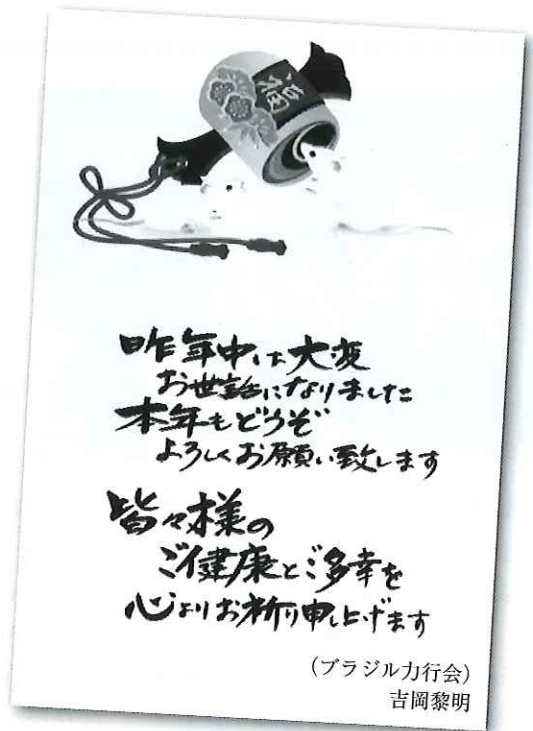
て「ピンクは桃の花だよね！」「おいしそうだね。」と嬉しそうに話していました。子どもたちは、ひな飾りの話を受け止めながら、1つ1つ目で追ってじっと聞いていました。男の子は牛車を見て「これは何？」と興味津々な様子でした。最後にひな飾りの前で皆で「ひなまつり」の歌を歌いました。歌詞の意味が分かって歌えたのが楽しかった様子で「もう1回歌いたい！」という声があがり、皆でくり返し歌いました。お弁当の後にひなあられを食べました。色とりどりのあられに「わぁーきれい！」

「海の砂みたい」と目を輝やかせたり、1粒づつ口に入れて「お豆の味がするね」と味わったり、「私も家でひなあられを食べたことある！」「私も！」とひなまつりの話でもちきりでした。子どもたちはひな祭りの歌を歌ったり、飾りを見たり、ひなあられを味わったりと、さまざまな面から親しむことができました。これからも、日本の伝統行事を通して季節を感じたり、昔の人の思いを知ったりして、子どもたちの心が豊かになるようにしていきたいです。





各国からの クリスマスカード





(ブラジル 永田久)

新年おめでとうございませう
 毎度お世話様は成りまいます
 新年一度のカレンダーも早く愛り取りました
 力行世界と共に何時も来しませう
 今年も三月の八月に又お世話に成るかも
 知れませう 決まり次第連絡させて置きます
 本年も皆々様の健康と物多き事を
 心からお祈り申し上げます
 令和二年元旦
 (ブラジル会 小野忠司)
 理事 長村上悦栄様
 外 販 眞鍋 眞鍋

2019年もまもなく終わろうとしています
 が、皆様お変わりなくお元気でおすごし
 のことと存じます。
 弓場は今年も色々な事がありました。
 8月28日に弓場農場会長望月友三が亡く
 なり新しく矢崎勇が会長に就任しました。
 11月6日に男の子が誕生し、11月21日
 には男の子女の子、弓場初の双子が誕生
 しました。
 弓場は恒例の「ナタールの集い」を前に
 その準備に忙しい毎日を過ごしています。
 来る2020年が良き年であるように皆様
 お元気で新年をお迎えになれるようお祈り
 申し上げます。
 2019年12月
 弓場農場一同

(ブラジル、アリアンサ 弓場農場)

2019年12月10日
 今日のは美しう、カードを
 いただきました。ありがとうございます
 来年の2020年も皆様のよき年
 になりますことを祈ります。
 私はもう八十歳なりませぬが
 ようなついでに、もう一歩
 家の外へ出ることもできず
 ちやんと足が腫れかたりに
 して、寂しいです。今は、静かに
 じっとしています。ご存じな
 とくになら、私はよくかた
 外へも出ることもできず
 (眞鍋 眞鍋 眞鍋 眞鍋 眞鍋)
 眞鍋 眞鍋 眞鍋 眞鍋 眞鍋

せん日一月十日にお送り下
 されたカレンダーをうけとりま
 してどうもありがとうございます
 す。ごくろうさまでした。
 キユーバ会員
 眞鍋 眞鍋

今年もカレンダーを送って頂きありがとうございました
 村上理事長の受勲、そして中島先生が引退されたとの事、おめでとうございます。
 TVで中村 哲医師のアフガニスタンでの働き、そして3日前に殺害されたニュー
 スを見ました。“砂漠に緑を”とのスローガンで活動し、アフガニスタンを豊
 かにする働きの途上であったので、とても残念です。
 中村医師はクリスチャンとの事、バイブルのモーセ、ダビデの働き、さらに身近な
 力行会の多くの先輩方が、世界中とりわけブラジルで、色々な方面で貢献して来た
 のを思い起こされます。
 [令和] となつて、日本も何か新しく伸びて行くように思います。
 サンパウロの日系人社会も、それなりの進展が感じられます。
 ブラジル力行会も2、3、4世の人たちが中心となつて進んで行くのを確信して
 います。
 村上理事長はじめ、理事、事務所、そして幼稚園の職員の方々にも新年がよき年
 であるようお祈りいたしております。
 令和 元年 12月 10日 伊能 弘治
 (カナダ会員)

力行会館在住ブラジル人留学生座談会

当会の現在及び未来を展望する上で、決して避けて通ることのできないブラジルとの関係、現在でも、多くのブラジルからの留学生が当力行会館に居住し、勉学に励んでいるが、今回、そんなブラジル人留学生達に、日本に留学するまでの経緯や、今の生活、そして、将来のあるべき日本への留学の形などについてざっくばらんに話してもらい、そんな座談会を去る2月7日、当力行会館研修室にて実施、当日は居住しているブラジル留学生達のほぼ全員が集まり、短時間ながらも、集まった留学生自身に発生した出来事を本音で語り合えた、貴重な意見交換が行えました。

なお、今回の結果を踏まえ、次回は更に枠を広げて中南米地域の会館留学生への座談会を予定しており、また違ったヒストリーや意見が交換できることと思います。

また、今回の座談会の結果については、今後の当会事業目標である、「日系4世ビザ」対応やその研修生受入制度創設など、日本とブラジルの力行会の継承事業に大いに役立てていく予定であります。

以下、今回の座談会で話された内容の要約となります。

来日までの経緯について

- ・ 日本に留学するきっかけとして、多くの人が日本語学習と日系団体に所属していたことが要因として多く報告された。
- ・ 日本語学習の場所については、日系団体の日本語教室、日本人学校、またインターネットを通じての日本情報（グーグル「GOGO NIHON」、アニメなどのサブカルチャーサイトほか）からの日本語学習なども報告された。
- ・ 奨学金を伴う日本留学の情報及び募

集は、ほとんどが上記の日系団体か日本語学校経由によるものがほとんど、原因は募集要件に日系団体や関係者の推薦が必須であることがそもそもの原因と推察される。その為か、非日系ブラジル人にはこの機会を利用することがほぼ不可能であると共に、その情報も彼等に届くことはないのが現状である。

- ・ 来日までの手続きが煩雑
（ビザ、航空券手配、研修先など、また郵便事情の悪さも複合要因）

来日中の問題点や課題について

- ・ 日本語学習が難しい、特に漢字の習得が最大の課題である
- ・ ポルトガル語で書かれた生活ガイドや日本語教材が少なく、不便である
- ・ 文化習慣の違いで戸惑う

今後の抱負や希望、制度の改善点など

- ・ 日本留学において、日本語学習と日本語修得が一番大切であり、その為

のツール開発(教科書、インターネットほか)及び容易に学習できる環境開発が必要なのではないかと

（他国と比較して、ポルトガル語での日本の情報があまりにも少なく、容易に入手できない）。

- ・ ブラジル各地で実施されている「ジャパン・フェスティバル」で日本留学をもっとアピールすべき、また容易に留学情報を得れるように、「日本留学センター」を設立すべき（ブリティッシュ・カウンシルのような機能を有するもの）
- ・ ブラジルの大学にある日本語科の授業に、長期間の「日本留学」の科目履修を必須とし、単位互換制を採用し、生徒の日本語習熟度を高めると共に、奨学金制度も利用できるようにする（日本語レベルのアップと就職機会を増やし、日本語学習を通じてより豊かな生活ができるようにする（給与アップ対策））
- ・ 改善策については、日系・非日系にかかわらず興味のあるすべてのブラジル人に対して実行すること
(文責・田中)



力行会で生活して、新たな世界に 出会うことができました

私は中石ペドロオソキと申します。日系ブラジル人で子供のころから日本の言語と文化に興味を持っていました。なぜかと言うと、幼いころから祖父が少しだけ日本語を教えてくれ、そこでいつか日本に行って日本語の勉強することを夢見ていました。祖父のように日本語が学びたいし人に教えたいと思い、その夢を叶えるために今まで力行会で色々お世話になっておりました。

日本に到着した初めての日から今まで力行会の方に色々感謝しております。なぜなら、大学に入った時に元力行会研修生の方から力行会について教えられて、もっと詳しい情報を探してブラジル力行会を発見しました。ブラジル力行会の方から日本語を勉強する可能性について教えられ、研修試験を受けた結果、運良く受かりました。信じられないほどついに夢が叶いました。

けど残念ながら合格結果を貰ったと

たん、母がおおきな病気を煩い、長い病院生活となってしまいました。その時、その夢と機会を諦めたほうが良いと考えてしまいましたけど、色んな人から特に力行会の方と大学の先生方から様々なアドバイスや励ましの言葉をかけられて、ブラジルにいたままでその夢を諦めてはいけないことを理解しました。日本に来る一ヶ月前に、ついに母が死亡してしまいました。こんな時に本当に心がもう張り裂けそうになり、もうこの夢を諦めて就職を探すほうが良いと思ったけど、再び多くの関係者から励まされ、結果として今日本にいることとなりました。

力行会に着いたとき世界中の人に出会うことができ、もっと興味深く、楽しく日本語と日本の文化を身につけることができました。多分ブラジルにずっと居たらそれぞれの素晴らしい機会に出会えなかったはずで。力行会に来

てから新たな未来が生まれた私にとって、新たな機会や知識など様々な可能性を身につけることができました。力行会館に住んでいるうちに数多い優しい人達に出会い、その人々から思わず感じた数多くの優しさを、今度は他の人達に伝えたくくなりました。

力行幼稚園の子供たちとも関わり、先生方の日々についても学び、できればその集めた情報をブラジルの教育カリキュラムへと実現したいと思います。つまり私が経験して学び、教えてもらったもの全部は力行会のおかげであり、双方が手に入れたものをまた別の人に伝えたいので、是非とも皆さんも力行会に来て欲しい。素晴らしい冒険を体験できますので。

力行会の皆様色々お世話になりました。この二年間の思い出は死ぬまで忘れられないと思います。心の底から感謝しております。ありがとうございました。

2018年度ブラジル力行会日本語研修生
中石ペドロオソキ

第2次大戦中の日系人強制収容、カリフォルニア州が公式謝罪決議採択へ

第2次世界大戦中の1942年2月19日、当時のルーズベルト米大統領は、国家の安全を脅かすとみなした人物を指定軍事区域から立ち退かせる権限を陸軍省に与えた。

以後の4年間で10万人以上の日系人（大部分は米国籍の保有者）が自宅から強制的に退去させられ、全米の強制収容所に送られた。

それからおよそ80年。米国史上、最大規模の強制立ち退きにかかわったカリフォルニア州が、日系米国人に公式謝罪することになった。

謝罪の決議案は、カリフォルニア州議会が今週中に採択される見通し。「第2次世界大戦中に日系米国人の不当な排除、立ち退き、強制収容」を支持したこと、さらには「日系米国人の公民権と市民の自由を守ることができなかった」ことについて謝罪するとしている。

さらに、「過去の過ちから学び、そ

うした自由に対する攻撃が、米国のどのコミュニティに対しても二度と起きないようにすることが、これまで以上に重要性を増している」とした。

決議案を提出したカリフォルニア州のアルバート・ムラツチ州議会議員（民主党）は、議員就任以来毎年、2月19日を日系人強制収容所の被害者追悼の日とするよう求める法案を提出してきた。

しかし今回は、追悼以上の行動に出る必要があると訴える。ムラツチ議員は日系アメリカ人市民同盟の機関誌「パシフィック・シチズン」にこう語っている。

「我が国の首都が党派に沿った絶望的な分断状態にあり、トランプ大統領が移民の家族や子どもたちをおりに入れている。こうした中で、カリフォルニア州議会は、日本人の祖先をもつ忠実な米国人12万人あまりを有刺鉄線の向こうに強制収容するに至った自ら

の行動について、超党派の公式な対応を表明する」

決議案はムラツチ議員が先月、他の数人の議員と連名で提出した。

カリフォルニア州は、第2次大戦中にルーズベルト大統領令が出される以前から、日系米国人やアジアからの移民に対して土地の購入や借地を禁じるなど、日系米国人を狙い撃ちにする州法を次々に制定していた。

日系人の強制収容については、1980年になって米議会が連邦委員会を設置し、ルーズベルト大統領令は正当化できないと断定。「人種的偏見、戦時中のヒステリー状態、政治的リーダーシップの失敗」による結果だったと判断した。

その数年後、当時のレーガン大統領は「1988年市民の自由法（日系米国人補償法）」を成立させ、米国を代表して日系人に謝罪している。

(CNN 2020年2月18日)

《ブラジル》国際郵便物には納税者番号を ＝1月以降物品受け取りに支障

ブラジル国税庁が、1月1日以降、郵便局や民間の運送会社を使って送る、または受け取る国際郵便物には、納税者番号の記載を義務付けると6日付郵便局サイトなどが報じた。

この措置は納税義務の有無などの判断や通達、徴税を容易にするためだ。荷物や書類の発送・受け取りには、個人なら納税番号（CPF）、企業なら全国法人登録台帳の番号（CNPJ）、外国人なら旅券番号が要求される。

国外から届いた国際郵便物にCPFなどがないと、郵便物の持ち込み禁止、国外返送、（返送出来ない時は）処分などのいずれかの措置がとられる。

3日に更新された国税庁のサイトによれば、ブラジルに到着する品物や書類には、インターネットなどで購入した品物（輸入品扱い）や、商品見本、忘れ物、旅行者の荷物などが含まれる。最近増えたインターネットによる物品購入時や国外の知人などに何か送ってもらう時は、住所や氏名（会社名）と共にCPFなどを知らせる必要がある。

伯国から発送する場合は、国税庁の他、

必要に応じ、国家衛生監督庁や農務省、国立再生可能天然資源・環境院などの諸機関の監査を受ける可能性がある。

なお、18年8月27日以降、国外からの国際郵便物の受け取りには、郵便物振分料金として15レアルの支払いが義務付けられている。

国際郵便物が届くと、郵便局に派遣されている国税庁職員が伝票の内容などをチェックして関税の有無を判断。受取人は荷物が届いたという通達を受け取ったら、郵便局のサイトで関税の有無などを調べ、料金と関税額を払わねばならない。料金を払った郵便物は自宅や会社に配送されるが、郵便局からの通知に記載された日付から1カ月以上経過した郵便物は差出人に返送される。

CPFやCNPJの登録、料金の支払い、郵便物がどこにあり、どのような状況かのチェックなどは、<https://www.correios.com.br/encomendas-logistica/minhas-importacoes/minhas-importacoes> や <https://www2.correios.com.br/sistemas/rastreamento/> で行う事が出来る。

（ニッケイ新聞 2019年12月27日）

《静岡新聞》外国人労働者「仕事が半分に」 深まるコロナ不況に心配の声

在日ブラジル人労働者には、すでにコロナウイルスによる経済的停滞の影響が出始めていると静岡新聞3月21日付け電子版が報じている。

日本のトヨタ自動車は、コロナウイルスの影響で新車需要が世界的に低迷しているため、グループ会社含む国内5工場計7ラインの操縦を、4月3日から2～9日間（稼働日ベース）停止すると発表した。このような不況の煽りを買って先受けるのは非正規雇用の派遣社員だ。特に日本の自動車関連工場にはブラジル人を始めとする外国人労働者が多い。

同紙によると、「派遣社員エイツカマサトシさん（57）＝浜松市北区＝が働く工場は稼働率が2～3割低下した。収入のあてにしていた残業がなくなり、『本当に困る。長く続いたら、ブラジルに帰ろうかな』とつぶやく。ナカイマリオさん（55）＝同市中区＝は県外で派遣労働に従事するブラジル人

の友人から『仕事が半分になった』と聞いた。ナカイさんが働く市内の工場にはまだ見られないが『もし、仕事が止まったら…』と懸念する」といった事例がでてくる。

こういった特定の外国人が多い地域では、コミュニティの親睦の場として、その国の食材や料理をだす店があり、そこも派遣切りや雇い止めの影響を受けている。同紙によると、浜松市中区のブラジル料理店でも本来なら繁忙期時期の2・3月に10件以上のキャンセルがあり、客足が日々遠のいている。

浜松労働基準監督署の外国語相談口（ポルトガル語）にはここ1、2週間で雇い止めに関する相談が増えている。

このままコロナ不況が深刻化すれば、リーマン・ショック時以上の外国人労働者解雇の流れにつながらないだろうかと心配する声が出始めている。

（ニッケイ新聞 2020年3月25日）

日本力行会機関紙「力行世界」 定期購読会員ご加入のお願い

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会はお陰様で創立123年を迎えました。「日本民族の霊肉救済」を旗印に、苦学生及び渡米希望者に支援や便宜を与え、さらに青年の移住斡旋や現地教育にも傾注し、北米、中南米、東南アジア、旧満州へ約3万人の移住者を送り出し今日に至っております。

創立80周年には、記念事業として創立理念をさらに発展させ、“世界と日本の架け橋となる人材育成”“海外同胞との連携強化”などの実現を目標に、留学生宿舍・「国際交流会館」を新設し、各国からの留学生を迎え、日常生活を通して日本文化を習得しながら修学や研究に励めるような環境づくりと支援活動を続けて参りました。

ご賢察の通り、この約40年間に円価値の激変などの日本経済及び世界的位置づけの変容により来日に感謝すべき時代を迎えた今、留学生の来日数や留学目的も変わり、公益の法人といたしまして資力不足ながらも、関係先との諸問題の解決や支援活動の強化や充実にも拘らず、在日留学生の生活環境はまだまだ十分と申し上げる状況ではございません。

つきましては、より積極的な国際交流の継続をご理解頂き、当会活動理解の為、『日本力行会機関紙「力行世界」定期購読会員』のご加入を頂きたくお願い申し上げます。また、ご友人や国際交流にご関心を抱かれている方々へのご紹介も合わせてお願いいたします。

末筆に成りましたが各位の益々のご健勝と弥栄を祈念いたしております。

敬具

令和2年4月15日発行 (学)日本力行会

〒176-0004

東京都練馬区小竹町2-43-12

電話 03-3972-1151(代)

FAX. 03-3972-1264

E-MAIL: rikko@rikkokai.or.jp

ホームページ

<http://www.rikkokai.or.jp>